

平成26年度

宜野座村むらづくり村民会議  
座長 當眞 淳 様

### 宜野座村の人材育成について（意見具申）

私たちの分科会では、表題の件について議論を重ね取りまとめましたので、別紙のとおり具申いたします。

平成27年3月18日

宜野座村むらづくり村民会議  
人材育成／人材活用 分科会

分科長 仲間 赴人  
副長 大城 勇人  
会員 屋嘉比 心  
会員 當眞 豊  
会員 仲程 千秋  
会員 小浜 直哉  
会員 仲村渠 梨奈  
会員 山城 英輔

## 1 具申の趣旨

宜野座村むらづくり村民会議設置要領第2条に「村民会議は、村をより豊かで暮らしやすい村とするために、村民の目線から様々な意見を出し合い、議論し、村政に対し意見を具申する場とする」とある。観光・介護・教育・建設・コンサルタント・救急・主婦・ITなど、我が人材育成分科会の会員の職種の多様さを見ても明らかのように、この半年間は「様々な意見」の応酬・摺り合わせの連続であった。会員皆が宜野座村を「豊かで暮らしやすい村」にすべく行動した結果である。

我々人材育成分科会は村総人口と比べると微々たる人数ではあるが、地域・職種・家族・年代・性別を代表する気概を持って取り組んできた。ゆえに座長にはぜひ、今回の具申を「村民の目線」で出された意見として村政に反映していただきたい。

## 2 人材育成の現状

人材育成を考える際、その対象が誰なのかによって答は異なってくる。大人なのか子どもなのか、男性なのか女性なのか。人材育成を通して「豊かで暮らしやすい村」をつくるという目標はぶれないが、対象によって方法論は異なる。皆が異なる職に就く会員の考える人材育成の対象はやはりバラバラであったが、大人にも子どもにも、男性にも女性にも共通する人材育成上の課題がないかを挙げてもらうと、「コミュニケーション能力の低さ」で意見が一致した。

概して宜野座村民は人前で話すことが苦手である。顔見知りの大人数の中では匿名性もあり言いたいことを言うが、個人としての発言ができない。プライドが邪魔をして失敗を恐れて言動が消極的である。質問とちぐはぐな回答をすることが多い。挨拶がきちんとできぬ。様々な場で発言を求められる立場であるから、リーダーになりたがらない。様々なことを他人事と考えていて、人の話を聞かない。

人材育成分科会は、対象を全年代・男女に広げ、コミュニケーション能力の向上を図るにはどうすれば良いのかを中心に話し合いをおこなった。

## 3 目的

人材育成分科会が掲げる人材育成の目的は以下の通りである。

- 1) 自分の思いを形にすることのできる「企画力」
- 2) それを外部に伝えることのできる「発進力」
- 3) 信念を持って前進することのできる「実行力」
- 4) 困難に打ち勝つことのできる「突破力」

上記の4つのちからを身につけ、宜野座村を愛し宜野座村の発展に貢献しうる人材の育

成を目的とする。

#### 4 提案

コミュニケーション能力の向上のために、人材育成分科会は「宜野座村コミュニティーラジオ」を提案する。ラジオ番組の企画・製作・運営を通して、実践的なコミュニケーションの場を提供し、楽しみながらコミュニケーション能力を育てる。村民全体がラジオ番組製作に関わり、かつ村民全体がラジオのリスナーになり、愛着を持ってラジオと関わっていく。上記にある4つの力と村を愛し発展に貢献する人材を育てていくことができると考え、コミュニティーラジオを提案する。

番組の具体例は次の通りである。

##### 1) 僕たち私たちの10分PLAN

村内にある学校や企業、各種団体、個人が、1週間に1回、10分間の番組を企画から製作・運営・出演までおこなう。失敗も経験してもらいながら、目的にある4つの力を養っていく。

##### 2) ○○名人

村内には隠れた名人たちがいる。釣り・三線・運転技術・虫博士・歴史・写真テクニックなど。そのような特技を持っていても、本人たちはなかなか表だって自慢しないものである。しかし、それこそ人財であり村の宝である。各名人にインタビューし、話をするきっかけ、コミュニケーション能力向上のきっかけをつくる。

放送後はリスナーからの問い合わせ等も含めてコミュニケーションの機会が増えることから、ゆくゆくは講師としての活動やその分野に関する起業も視野に入れた発展が期待できる。

村民ラジオが宜野座村の未来を連れて来る。私たちが笑って暮らせる未来、皆がいつも何かにワクワクしている未来、暮らすことが生きることが楽しくなる宜野座村。そして私たちが孤独にならない未来、どこでもいつでも仲間の声がある宜野座村ができる。人材育成で「豊かで暮らしやすい村」をつくることができるのである。

#### 5 課題と解決策

コミュニティーラジオはここ数年で飛躍的に数を増やしているが、運営困難な局が約半分あるなど楽観はできない。いちばんの問題点は経費である。初期設備だけで約800万円かかり、継続的に著作権料や人件費・不動産費などで100万円前後かかる。しかし、見方を変えれば、約半分は順調に局運営できているということもある。

いきなりの開局では人材育成どころの話ではなくなるであろう。局の運営だけで手一杯

の状況になると、それは人材育成として本末転倒である。しっかり人材育成の場としてラジオを活用するのならば、試験的に、他のコミュニティーラジオの番組を定期的に買い取り、そこでノウハウを蓄積することを考えてもよい。

幸いなことに、現在宜野座村では「リバーパーク構想」が進められていて、道の駅宜野座の開発を中心に新たに施設が建設されるという。

その中に予め、コミュニティーラジオ用のスペースを確保することも可能である。初期設備や不動産費などを抑えることができ、開局のハードルは下がるであろう。

## 6 将来像

企画力（自分で考えることができる）・発信力（外部に伝える）・実行力（信念を持って前進）・突破力（困難に打ち勝つ）を備えた人材育成を目的し、宜野座村コミュニティーラジオを通して、コミュニケーション能力を向上させる事で、社会に必要とされる人材、地域を誇りに思える人材、地域の発展に貢献できる人材を育てる事が、活力ある地域づくりへと繋げます。

「魅力ある人材が増えれば魅力ある地域を形成する」ことを信じて。